

事 業 報 告 書

決 算 報 告 書

2014年度

第27期

自2014年4月 1日

至2015年3月31日

あしなが育英会

## 2014年度事業報告

今年度は、会則の改定に取り組んできた。  
会則の改定に伴い、就業規則等の改定も進めてきた。  
2015年度には、整う見込みとなった。

奨学金の貸与返還については、滞りなく行ってきた。

総体的には、高校奨学生の応募が減少している。これは、授業料の無償化等が影響していると考えられる。逆に、専修・各種学校生の応募が増えてきている。

返還者数は24,799名、回収額は約15億円、返還率は91%を超え、おおむね順調な状況であるといえる。

あしなが心塾(百草)も、神戸虹の心塾もウガンダ等海外からの留学生の数が増え、より国際的な塾となってきた。

国民性の違いによる課題も数多くあるが、それを乗り越えつつ、職員が一丸となり、カリキュラムの改革に着手した年であった。

インターンシップ・プログラムについては、さらに充実してきた。

13か国28大学から100人のインターン生を迎え、6月末から3か月間のプログラムを行った。

特筆すべきは研修の後半で、彼ら自身が、アフリカ遺児の支援のために新宿駅で街頭募金を行ったことである。

また、このインターン生を迎えての高校奨学生のつどいは、新たな時代を迎えた感がある。それは本当の意味で「国際性を標ぼうできるつどいになってきた」ということになるであろう。もちろん暖かい心、広い視野、行動力をも兼ね備えたものである。

ただ惜しむらくは、国立淡路青少年交流の家のつどいが、台風のために高校奨学生が集合できなかったことである。

あしながレインボーハウス(百草)と神戸レインボーハウスに加え、東日本大地震津波遺児支援事業として東北各施設でも心のケア活動を行っている。事業計画及び本報告では、別に記載しているが、当然のことながら、各施設で連携協力して実施している。

特に東北の3施設はエリアも広く、現在まだマンパワーが不足しがちでもあることから、あしながレインボーハウスと、神戸レインボーハウスが多くの事業の支援を行

った。

また、神戸レインボーハウスは震災から 20 年を経過し、節目の時期を迎えていることを実感した年でもある。

広報活動としては、機関紙の発行はもとよりホームページのトップページを刷新し、できるだけ頻繁にその情報を更新するように努めた。

しかし、SNS など電子媒体による広報活動については、より研究と戦略が必要であることを痛感している。

東北レインボーハウスについては、仙台、石巻に続いて陸前高田のレインボーハウスも竣工し、施設的には体制が整った状態である。

そのような環境の中でファシリテーターの養成や、地域団体との連携を一層充実させることでより良いケア活動をめざしてきた。

海外遺児支援事業については、前述したインターンシップ生の若い力と賢人達人の知恵によるアフリカ遺児高等教育支援の形が整ってきた。

賢人達人に関しては、54 人のご了解を得た状態で、現在も進行中である。

100 年構想 2 期生となるアフリカ遺児の選考も、職員の奮闘により順調に進んでいる。

また、世界中からアフリカ遺児のためのあしながさんを募るための拠点としてアメリカに「Ashinaga Inc.」を設立した。

ウガンダ心塾は第 2 期工事に入り 2015 年 7 月には竣工の予定である。

## 1. 奨学生の採用と奨学金の貸与等

### (1) 奨学生採用者数と貸与額

14年度は1,849人を採用し、22億3936万5千円(入学一時金1億3250万円およびオンコセラピー・サイエンス奨学貸与金420万円を含む。以下同じ)を貸与した。1988年の本会発足以来、27年間に累計38,795人を採用し、貸与額累計は388億9464万5千円となった。

奨学金の貸与月額は高校生25,000円(国公立)と30,000円(私立)、大学生40,000円(一般)と50,000円(特別)、専修・各種学校生40,000円、大学院生80,000円、オンコセラピー・サイエンス奨学生は25,000円である。また、入学一時金の額は、私立高校生30万円、私立大学生40万円である。

### (2) オンコセラピー・サイエンス奨学金の貸与と給付

がん遺伝子を解析、治療薬開発に取り組む企業の上場に伴い、その関係者より03年度と09年度に合計5億円の寄付があった。寄付の趣旨に添って本会大学奨学生の中から該当奨学生を選考し、月額50,000円を半額給付・半額貸与する制度が04年度からスタートした。12年度までの採用で基金を使い切るため、13年度から新規の採用はしていない。

14年度は13年度からの継続者14人に対し給付と貸与を行い、給付額は420万円(累計額2億3617万5千円)、貸与額も同額の420万円(累計額2億3617万5千円)となった。

14年度における制度別の採用者数と貸与額は次の通りである。

	継続者	予約採用	在学採用	合計	貸与額(千円)
高等学校	2,376	914(1,066)	316(327)	3,606	1,225,785
大学	1,015	314(496)	133(162)	1,462	836,460
専修各種	180	91(118)	73(77)	344	160,800
大学院	9		8(8)	17	16,320
合計	3,580	1,319(1,680)	530(574)	5,429	2,239,365

※貸与額には入学一時金とオンコセラピー・サイエンス奨学貸与金を含む。

※合計人数は、留年・休学等による奨学金送金停止者を除く。

※予約採用者とは13年度に予約申請した進学予定者で14年度に正式採用された者。

※在学採用者とは14年度に在学申請し、正式採用された者。

※( )内の数字は申請者数である。

### (3) 学生の異動状況

14年度における奨学生の異動状況は次のとおりである。

	辞退	退学	期間短縮	死亡	合計	休学	復学
高等学校	46	81	10	1	138	14	2
大学	18	49	19	2	88	31	31
専修・各種学校	0	29	1	0	30	6	2
大学院	0	0	0	0	0	0	0
合計	64	159	30	3	256	51	35

### (4) 私立高等学校および私立大学入学一時金の貸与状況

私立高校入学一時金は263人に30万円を貸与し、私立大学入学一時金は134人に40万円を貸与した。なお、14年度末の都道府県・制度別奨学生数は別表に掲げる「奨学生現況表」のとおりである。ただし、現況表の下欄「休停止」の人数は休学者と原級留置による奨学金停止者の合計を示す。

### (5) 奨学生募集広報

国による高校授業料無償化や高校生等奨学給付金制度の影響もあり、高校奨学生申請者数は08年度の1,968人をピークに漸減し、14年度は1,393人で08年度比70.8%まで減少した。対策として、従来どおり広報活動を徹底するとともに、13年度から専修・各種学校奨学金制度においては予約申請も可能とし、かつ対象を高校奨学生以外にも広げたことを皮切りに、14年度も引き続き、本会奨学金制度をより魅力あるものとするための努力を継続し、次年度から実施するべくその準備を整えた。

## 2. 奨学金の返還

### (1) 返還額と返還率

返還者数は24,799人。要返還額16億3050万128円に対し返還額は14億8918万7060円。返還率は91.33%となった。

### (2) 返還免除と債権放棄

14年度の返還免除と債権放棄の総数は44件3240万5450円となった。内訳は本人死亡による返還免除が22件(1541万4000円)、破産による債権放棄が20件(1612万1200円)、債務整理による債権の一部放棄が2件(87万250円)。

### (3) 返還完了者数

合計953名で、内訳は高校奨学生769名、専修各種学校奨学生27名、大学奨学生156名、大学院奨学生1名。

### (4) その他

貸与終了者への返還の案内として「返還の手引き」「返還開始提出書類のリーフレット」を刷新し、借用証書提出への理解を促し、借用証書回収の架電に注力することにより、回収率ほぼ100%となった。

### 3. 教育事業

貧富の格差拡大とグローバリゼーションが比加級数的に進行するなかで、2014年度も昨年度方針を貫き、遺児に貧困の連鎖から抜け出す力をつけさせるために、「自分の頭で考え判断し行動できる人間（考動人）づくり」に努めた。

14年度は「あしながインターンシップ」生を前年度の12人から100人に増やし、すべての「奨学生のつどい」に参加した。彼らの存在は本会の遺児への指導教育における「加点主義」方針の充実や、遺児たちの視野拡大、自尊心の確立、豊かな人格形成の醸成に貢献した。

#### (1) 「あしなが心塾」活動

「あしなが心塾」（東京）の14年度の入塾生は日本人学生20人（中途入塾2人含む）、海外遺児学生2人の計22人だった。06年2月に開塾して以来、塾生の累計は336人となった。また、14年度にウガンダ、メキシコ、中国、トルコでの1年間研修のため休塾した塾生は4人だった。

15年2月15日に第11回卒塾式を行い、日本人学生13人にトルコからの留学生エリフ・ゴクデミル（早稲田大）を加えた14人が卒塾し、卒塾生の累計は125人となった。

全心塾生を対象にあしなが心塾講座を4回実施し、12月13日の第3回あしなが心塾講座には初めての英語スピーカーとして、ムリガンデ駐日ルワンダ大使（当時）にお越しいただいた。また、希望者を対象に高橋俊一先生（元朝日新聞記者）による文章作法講座、山田厚史先生（AERAシニアライター）による時事問題講座を実施した。さらに、月2冊の読書感想文の添削指導は、菊地良一先生（元NHKプロデューサー）に2年生以上を、岩橋豊先生（下野新聞監査役）に主に1年生を担当いただいた。

国際性を養い言語能力を高めるため、6月から約3か月間、塾生と寝食を共にした英米国からのインターン生述べ69人から個別に英会話のレッスンを受け、希望者にTOEIC IPテストを2回実施。さらに、アフリカ遺児高等教育支援100年構想についての理解を深めるため1年生13人を6月に約1週間ウガンダへ短期派遣した。

また、行動力を高めるため、国際自然大学校の実施する100キロチャレンジハイクに2人の心塾生が参加し完歩した。

#### (2) 「神戸虹の心塾」活動

「虹の心塾」（神戸）の14年度の入塾生は日本人学生7人、海外遺児留学生6人の計13人だった。海外遺児留学生は、ウガンダ共和国から4人、インドネシア共和国から2人を迎えた。99年3月に第一期生16人で開塾して以来、累計196人となった。また、14年度はフィリピンでの1年間研修のため塾生1人が休塾した。

15年2月15日に第16回卒塾式を行い、日本人学生5人、海外遺児留学生4人の計9人が卒塾し、卒塾生の累計は94人となった。14年度の卒塾生は、新聞社、病院等へ就職した者が4人、大学院への進学が3人、海外遺児留学生の2人は母国へ帰国した。

塾生たちに社会に出る上で必要な知識や意識を身につけてもらうため、西村由美先生（株式会社美キャリア代表）によるソーシャルマナー講座を単発で行った。

立石博紀先生（関西学院大学・関西大学英语講師）に指導を依頼し、TOEIC講座を実施した。毎月2回土曜日に開講し、2クラスに分けてレベルに合わせた授業を行った。毎回課題が与え

られ、塾生は継続的に英語の勉強に取り組み、スコアアップに励んだ。IP テストを 2 回実施。対象者 22 人のうち 6 人が、心塾が目標に掲げる 700 点を超えた。

### (3) インターンシップ・プログラム

14 年度は世界 13 の国と地域にある 28 の名だたる大学からインターンシップ生 100 人が参加した。彼らは 6 月末から 3 か月間、東京と神戸の学生寮「心塾」に滞在しながら、英語を通しての会話力やコミュニケーション力を遺児学生らに教え、遺児自らのセルフエスティーム（自尊感情）向上に貢献してくれた。京都大学と共同で「京都学」を実施。遺児学生、京大生らと文化、歴史などを学びあった。8 月には山中湖畔荘「清溪」において、遺児学生含む国内 25 大学 50 人も加わり、「アフリカ遺児高等教育支援 100 年構想」実現に向けて 3 泊 4 日で「世界学生会議」を行い、議論を交わした。会議後は、新宿駅前でアフリカ遺児のための街頭募金を行った。遺児学生らと岩手県陸前高田市の被災地を訪れ、津波遺児らと交流した。その後、高校生のつどい各会場、大学生のつどいにも全日程参加し、遺児の高校生や大学生らと将来や夢について語り合った。つどい参加者の 95%が「良かった」、と答えるほど非常に充実した 3 か月になった。

### (4) 教育指導事業

奨学生の就学状況や生活状況等の現状を把握するために、全奨学生約 5,500 人に対し 14 年度末に学業成績表と生活状況報告書の提出を求めた。生活状況報告書では、進路希望や高卒で就職する理由などを把握した。

また、指導教育の一環として、全奨学生に対し 7 月に新訳『あしながおじさん』（ジーン・ウェブスター著）を、12 月には『高卒でも大使になれた』（藤田順三著）と『9 歳で突然父を亡くし新聞配達少年から文科大臣に』（下村博文著）を送り、その読書感想文を募ったところ、年度末までにそれぞれ約 600 編が提出された。

### (5) 日本遺児学生の海外 1 年研修プログラム

14 年度は本会大学奨学生 25 名を海外留学研修生として、8 か国 10 地域に派遣した。派遣先と人数は中国 2 名、ウガンダ 6 名、ベトナム：ホーチミン 2 名、ダナン 2 名、メキシコ 2 名、インドネシア 2 名、トルコ 4 名、台湾 1 名、フィリピン：マニラ 3 名、ケソン 1 名であった。14 年度から新たに派遣先に加わったフィリピンでは、3 名がマニラ市のユニクロ・フィリピンで店舗スタッフとして実労研修を行い、1 名がケソン市でフィリピン法務省の保護監察士のアシスタントを務めながら、フィリピン大学で心理学など数科目を受講した。いずれの研修生も出発前と比べ、飛躍的に英語力を向上させることができた。他国の研修生も例年通り現地語の学習、エイズ遺児の心のケア活動、日本語教育・文化交流事業の補助、ボランティア活動などに携わり、充実した研修生活を送った。研修生は 3 月までに全員無事帰国し、帰国報告会を行った。

### (6) 日本遺児学生の短期交換交流プログラム

14 年 6 月にあしなが P ウォークの地区代表を務める大学奨学生 12 名、あしなが心塾生 12 名、計 24 名からなる派遣団を編成しウガンダで短期研修を行った。学生たちは約 1 週間の滞在中、あしながウガンダで寺子屋の子どもたちへの特別授業、ウガンダ人家庭へのホームステイ、エイズ発祥の地として知られる極貧地区ラカイの視察などを行った。

8 月には本会大学奨学生から募集・選抜した男女各 2 名、計 4 名を例年通り、南加日系商工

会議所が主催するロサンゼルス短期研修に派遣した。約 3 週間の滞在中、参加した学生たちはホームステイ、2 世ウィーク Japanese Festival への参加、日系アメリカ老人ホームでのボランティア活動、ロサンゼルス市内見学、地元の企業、施設、団体への訪問などのプログラムに参加した。

ライオンズクラブの Youth Camps & Exchange (YCE) プログラムを通して春に本会大学奨学生 3 名をタイに、夏に 3 名を米国カリフォルニア、また、各 1 名をドイツ、チェコスロバキア、マレーシアに派遣した。派遣された学生はそれぞれの国に約 3 週間滞在し、ホームステイ、国際キャンプなどのプログラムに参加し、異文化に触れながら国際交流を楽しんだ。

#### 4. 心のケア事業

##### (1) 高校奨学生のつどいの開催

14 年度の高校奨学生のつどいは、8 月中に全国 10 会場の国立青少年交流の家において 3 泊 4 日で開催した。高校奨学生 858 人（参加率 24.2%）、大学・専門学校生リーダー等 597 人（うち、淡路のつどい 126 人）が参加した。関西と北陸地区合同の淡路青少年交流の家でのつどいは、台風の影響で高校生の参加を中止しせざるを得ず、大学・専門学校生リーダーとあしながインターンシップ生のみのもつどいとなった。

つどいのテーマは前年と同様に全国統一で「志高く WORK HARD」とし、どんな時代になっても生き抜いていく力を付けなければならないことを伝え、本気で具体的に WORK HARD（一生懸命に勉強し働く）していくことを一人ひとりが決意できるように努めた。

特筆すべきはインターン生の活躍である。インターン生のつどいへの参加は 13 年度から始まったが、今年度は昨年 12 人から一気に世界 28 大学 95 人へと増員された。その品性と知性の高さ、深い愛情と情熱で、高校生が前向きに根本的に変わり始める貴重な場をつくることができた。つどい最終日に行ったアンケートでは、高校生（回答 844 人）の 3 人に 1 人が「英語をもっと本気で勉強したいと思った」と答え、中にはインターン生に留学の相談をする高校生もいた。

##### (2) 大学および専修学校・各種学校奨学生のつどい

14 年度は、会場を「ホテル光風閣くわるび」（山梨県西湖）に移し、9 月 1 日～5 日までの 4 泊 5 日開催した。大学、専修・各種学校の 1、2 年生 319 人（出席率 52.3%）、リーダーとなる 3 年生以上 72 人（うち、インターン生 31 人、海外遺児学生 5 人）、役職員等 51 人の計 442 人が参加した。高校奨学生のつどいと同様に「志高く WORK HARD」をテーマに掲げ、今年も「加点主義」の方針を貫いた。つどいを進行する議長団にインターン生が加わることによって、日本人学生とインターン生がより深く融合したつどいとなった。その結果、会場で実施したアンケートでは「インターン生が班に入ってよかった」との回答が 97.8%、「来年もインターン生と一緒につどいをしたい」が 95.9%にも上った。

##### (3) あしながレインボーハウスのケア活動

あしながレインボーハウスでは、神戸レインボーハウスと連携し「全国小中学生遺児のつどい」を開催し、病気・災害・自死遺児と、全国に避難している東日本大地震・津波遺児のケアと成長を促した。

東北事務所と連携し、3 か所のレインボーハウス（仙台・石巻・陸前高田）で開催した津波



遺児のケアプログラムをサポートした。

上記の活動を支えるケアのボランティア「ファシリテーター」をさらに養成するため、あしながレインボーハウスでファシリテーター養成講座を開催した。また、神戸レインボーハウスや東北各地で開催する養成講座をサポートした。

① 全国小中学生遺児のつどい

全国小中学生遺児のつどいは、2泊3日の「スリーデイ」を5回、1泊2日の「ツーデイ」を5回の計10回実施した。のべ参加人数は、遺児223人、保護者84人、その他10人、計317人だった。ファシリテーターの参加者はのべ161人、ファシリテーター以外のボランティアはのべ117人、計278人だった。

初参加の子どもが回を重ねるごとに増えている。

② ワンデイプログラム

ワンデイプログラムは、6月からほぼ月に1回日曜日に9回実施した。のべ参加人数は遺児78人、保護者63人、その他2人、計143人だった。また、ファシリテーターの参加者はのべ91人、ファシリテーター以外のボランティアはのべ19人、計110人となった。宿泊を伴うつどいに参加できない遺児と保護者が継続して参加している。

③ ファシリテーター養成講座

ファシリテーター養成講座は、14年9月27日～28日と15年2月21日～22日の2回、東京で開催し41人が修了した。

(4) 神戸レインボーハウスのケア活動

神戸レインボーハウスのケア活動では、従来から行っているグループタイム、つどい、偲び話しあう会、教育プログラムの「虹の寺子屋」、ファシリテーター養成講座などを実施し、病気・災害・自死遺児とその保護者らが参加した。

大学生に成長した阪神大震災遺児や病気・災害・自死遺児は、ファシリテーターとして神戸レインボーハウスや東京のあしながレインボーハウスのプログラム、東日本大震災津波遺児支援活動にも参加し、後輩遺児たちを支えてくれた。

① グループタイム

グループタイムは、小学校2年～中学校3年生の遺児のグループで毎回10人ほどの遺児、7、8人のボランティアで「家族の思い出」などのお話しの時間、鬼ごっこ、宝探し、ハンドペインティングなどを通して、遺児たちの抱える思いを自然な形で外に出してもらおうプログラム。隔週の日曜日に年間12回実施し、のべ143人の遺児が参加した。

② つどい等の開催

- ・キャンプのつどい（8月22日～24日、兵庫県家島町、病気・災害・自死遺児31人、ファシリテーター20人、他スタッフ6人、計57人が参加）
- ・クリスマスのつどい（12月14・21日、神戸市、病気・災害・自死遺児家庭62人、ファシリテーター31人、出演者他スタッフ13人、計106人が参加）
- ・雪あそびのつどい（2月14日～15日、兵庫県香美町、病気・災害・自死遺児22人、ファシリテーター27人、他スタッフ2人、計51人が参加）
- ・ツーデイのつどい（7月19～20日遺児家庭24人、ファシリテーター14人、スタッフ他10人合計48人。11月15～16日遺児家庭31人、ファシリテーター12人、他スタッフ5

人、計 48 人が参加)

- ・日帰りのつどい（計 6 回開催し、お花見や陶芸教室、乗馬、積木、お正月、遊ぼうデーなどを行った。病気・災害・自死遺児家庭は延べ 189 人、ファシリテーター他 100 人、計 289 人が参加)

### ③ 偲び話しあう会

阪神・淡路大地震の遺児及びその関係者が参加する「第 20 回今は亡き愛する人を偲び話しあう会」を 15 年 1 月 12 日に神戸レインボーハウスで実施し、阪神淡路大震災遺児家庭から 50 人、東日本大地震津波遺児家庭から 15 人、参列者他 55 人、計 120 人が参加した。午前中は追悼セレモニーと 20 年間の活動報告、午後は小グループに分かれて震災体験やその後の生活、将来のことなどを話しあった。

### ④ 教育プログラム

幼少期にある遺児の教育支援活動として月 2 回日曜日に学習塾「虹の寺子屋」を合計 12 回行った。小学生 14 人が延べ 145 回参加し、教員 O B 11 名から国語と算数の個別指導を受けた。参加者からは、「解りやすい」「続けたい」などの意見が多く、教員 O B の皆さんも子どもたちとの時間を楽しみにしていただいている。

### ⑤ ファシリテーター養成

15 年 3 月に「ファシリテーター養成講座」を開催し、24 人が修了した。修了者は累計 732 人となった。修了者はグループタイムやつどいのファシリテーターとして活動していただく。

## 5. 広報・調査研究事業

### (1) 機関紙の発行

14 年度は第 132 号～137 号まで、計 6 回発行した。主な「掲載・特集」内容は次の通りである。

- ① 132 号（5 月）：秋篠宮殿下・眞子内親王殿下がコラボ音楽会ご鑑賞と仙台レインボーハウスご訪問、仙台・石巻レインボーハウス竣工、村田治副会長が関西学院大学学長に就任、特集Ⅰ鼎談／孫正義ソフトバンクグループ代表・下村博文文部科学大臣・玉井義臣あしなが育英会会長、特集Ⅱあしなが育英会と米国ヴァッサー大学共催コラボレーション音楽会「世界がわが家」報告、アフリカ遺児高等教育支援 100 年構想事業経過、14 年度事業計画、インターンシップ・プログラム詳細
- ② 133 号（7 月）：インターンシップ・プログラム速報、13 年度事業報告、陸前高田レインボーハウス竣工、ウガンダ共和国出身遺児を職員に初採用、夏のつどい告知案内、あしなが育英会大学奨学生など子どもの貧困の当事者・支援者ら「STOP！子どもの貧困東京ユースミーティング」開催
- ③ 134 号（9 月）：インターンシップ・プログラム特集＝Ⅰ国内各地のつどいに参加、Ⅱ世界学生会議と新宿募金、Ⅲインターン生の感想、Ⅳ京都学、Ⅴ東北ボランティア、Ⅵ下村博文文部科学大臣と一問一答、Ⅶインターン生が玉井会長に提案、Ⅷアフリカ遺児高等教育支援 100 年構想事業・第一期生採用試験実施
- ④ 135 号（11 月）：アフリカ遺児高等教育支援 100 年構想事業第一期生決定・紹介、あしな

がウガンダ心塾開講、夏のつどい報告、桜井義維英新事務局長就任、広島大学が藤村修副会長へ名誉博士称号授与、桂小金治師匠ご逝去、第 89 回あしなが学生募金

- ⑤ 136 号 (1 月) : 第 26 回あしなが遺児と親の全国大会、下村博文元副会長が文部科学大臣に再任、アフリカ 100 年構想第一期生勉強合宿終了、あしながウガンダ総合調査報告、第 41 回あしなが P ウォーク 10、玉井会長が英国オックスフォード大学総長と対談、玉井会長がウガンダ・マケレレ大学で講義、あしながさんへ年賀状、新連載「温故知新」 I

- ⑥ 137 号 (3 月) : あしなが募金が世界各地へ、第 20 回今は亡き愛する人を偲び話しあう会、東日本大震災から 4 年 課題と展望、東西の心塾卒塾式、玉井義臣さんの傘寿を祝う会、あしながさんへ卒業礼状、鼎談／アンドリュー・ハミルトン英国オックスフォード大学総長、下村博文文部科学大臣、玉井義臣あしなが育英会会長、「温故知新」 II

## (2) ウェブサイト

14 年度にトップページ他を刷新し、より見やすく分かりやすく、必要な情報にたどりつきやすいサイトへの脱皮を図った。記事の更新頻度を上げ、できるだけ新しい情報を掲載できるように努めており、14 年度の更新回数は 113 回となった。また、本会とヴァッサー大学の共催であるコラボレーションコンサート「世界がわが家」の専用 WEB サイトを開設した。さらに、「アフリカ遺児高等教育支援 100 年構想」について、一般の方々やご寄付者の方々に、より一層ご理解いただくために、「100 年構想」の専用 WEB サイトを 15 年度早々に開設すべく、準備を進めてきた。

「年間訪問件数」は 54 万 6791 件、「年間総閲覧ページ数」は 172 万 4655 ページ、「最高月間訪問件数」は 3 月期 7 万 5734 件だった。80 か国以上からアクセスがあった。

## (3) 調査研究活動・子どもの貧困対策法制定に向けた活動

### ① 遺児家庭の生活実態訪問聞き取り調査

9 月から 12 月にかけて全国各地で大学奨学生らが、遺児家庭への家庭訪問と聞き取り調査を実施した。大学奨学生は、遺児家庭の母親の生の声を聞きレポートにまとめることで、「第 26 回遺児と親の全国大会」（今回から名称の「母親」を「親」に一部変更）やあしなが学生募金など、あしなが運動へのモチベーションを高めた。

### ② 高校奨学生アンケート調査

14 年 11 月に本会では初めてとなる高校奨学生 3,543 人を対象に、郵送によるアンケート調査を実施し、2,118 人から回答（回答率 59.8%）があった。

37%の高校生が「アルバイト経験あり」で、バイト代の平均額は月 3 万 5 千円。用途は、「通学・部活など学校の費用」、「学習塾や進学費用」をあわせた「教育関連費」が 50%。四分の一は「家庭の生活費」に充てていた（複数回答）。

高校卒業後の進路希望は、「大学・短大進学」41%、「就職」30%、「専門学校進学」20%、「未定」9%。就職希望者の理由は、進学したいが「経済的にできない」、「家計を助けなければならない」の合計が 36%だった。女子は 45%で、男子 30%より 15 ポイントも高い。また生活面では、「洋服や靴などがまん」37%、「習い事ができなかった」17%、「クリスマスプレゼントなどもらえず」15%、「お年玉をもらえず」13%（複数回答）。さらに、部活や習い事など「やめた・やったことがない」は 20%で、全国高校生調査より 9 ポイントも

高い。また、パソコンを持っている高校生は23%で全国高校生調査49%の半分以下などさまざまな面で我慢を強いられている実態が、初めて判明した。

調査結果は全国紙を含む多くのマスメディアが報道した。

### ③ 遺児と親の全国大会の開催

14年12月7日に「第26回あしなが遺児と親の全国大会」を開催し、全国各地から250人の遺児母子らが参加。各政党に「子どもの貧困対策緊急公開アンケート」を実施し発表した。すべての政党から実態把握や実効性のある施策実施に極めて前向きな回答を得た。

### ④ 「子どもの貧困」問題に関する運動

遺児学生が中心となって13年6月に成立した「子どもの貧困対策法」。その対策計画などを盛り込んだ大綱策定のため内閣府で「子どもの貧困対策に関する検討会」が開催され、その委員に大学奨学生の高橋遼平さん(中央大3年)が当事者代表として任命された。高橋さんが委員長となり子どもの貧困対策に取り組む全国の団体とともに「STOP!子どもの貧困ユースミーティング」実行委員会を結成。5月の東京での集会には、下村博文・文部科学大臣はじめ各党議員らが出席。まとめた意見が政府の大綱に反映された。また、義務づけされていない各都道府県の「子どもの貧困対策計画」の策定のために、各地でユースミーティングを開催。9月に愛知、10月に京都、11月に北海道で開催され、知事や議員らを含め多くの市民が参加した。

## 6. 東日本大地震・津波遺児支援事業

東日本大震災から4年が経過した。震災遺児家庭の抱える課題は家庭ごとに異なり、複雑で、困難で、繊細である。さまざまな専門家や行政と連携して支援活動をすすめていかなければ、克服することはできない。

東北レインボーハウス(以下「RH」)は、14年3月に仙台と石巻、同年6月に陸前高田で完成し、活動を始めた。震災遺児家庭の子どもや保護者がいつ訪れても、安らぎと笑顔があふれて、自分の気持ちに素直になれるような場所をめざしている。週末を中心に各館で月2~3回程度、震災遺児家庭同士の交流プログラムを行ってきた。

各RHへの震災遺児家庭の期待や、地域からの様々な要望があるが、まだそれらのニーズに応えられるには至っていない。子どもたちを支えていくために何から着手すればよいのか、震災から4年を過ぎた今も模索しつつ活動を進めている。

### (1) 東北レインボーハウス建設

14年3月に完成した仙台と石巻のRHに続き、同年6月には陸前高田RHが完成。陸前高田市の津波による浸水地域から離れた高台に立地。新築2階建。延べ床面積1,201.6平米。設計・監理は日本設計、施工は伊東組。

### (2) 心のケア活動

#### ① 仙台レインボーハウス

14年5月「中高生のつどい」を皮切りに、不定期で交流プログラムなどを開催。「NPO法人子どもグリーンサポートステーション」と定期的に毎月2回のペースで合同開催していた「仙台ワンデイプログラム」は、14年12月までは同法人の会場を使用していたが、15年1月から仙台RHを会場としている。同法人会場では計18回、のべ38世帯(子ども55

人、保護者 29 人) が参加。会場を仙台 RH としてからは計 6 回、のべ 16 世帯 (子ども 28 人、保護者 14 人) が参加。不定期プログラムは計 4 回、のべ 53 世帯 (子ども 78 人、保護者 46 人) が参加。

なお、仙台ワンデイプログラムには、同法人が参加者募集の窓口となって、病気、自死、交通事故などで家族をなくした子どもとその保護者も参加している。

#### ② 石巻レインボーハウス

14 年 4 月に石巻駅前の仮設事務所から移転。同年 5 月から「金曜開館日」を毎月 2 回、ワンデイプログラムを不定期に開催。夏期休業中の平日にも開館日を行った。移転前後を合わせて計 35 回、のべ 216 世帯 (子ども 245 人、保護者 114 人) が参加。

震災遺児の保護者による館内清掃活動を、7 月から毎月 2 回実施。計 15 回のべ 44 人参加。保護者同士と一緒に掃除をしながら、あるいは清掃終了後に弁当を食べながら、おしゃべりと交流の時間となっている。

#### ③ 陸前高田レインボーハウス

13 年度まで活動の拠点としていた陸前高田準備室 (トレーラーハウス) を 14 年 3 月に撤去。RH 竣工の 6 月までは、会場を借りての活動。7 月以降は陸前高田 RH で、陸前高田とその周辺の震災遺児を対象とした開館日を月 2 回、岩手県全域を対象としたワンデイプログラムを不定期に開催した。盛岡市ではプロ野球観戦ご招待と温泉宿泊のつどい、宮古市でもワンデイプログラムを開催。陸前高田 RH では計 22 回、のべ 116 世帯 (子ども 158 人、保護者 40 人) が参加。陸前高田 RH 以外では岩手県内で計 2 回、のべ 22 世帯 (子ども 30 人、保護者 24 人) が参加。14 年 8 月にはインターンシップ生が来館し、館内見学と震災遺児との交流を行った。

#### ④ 3 月 11 日の様子

震災から 4 年目の 3 月 11 日、仙台 RH では、保護者同士が、震災当日に避難所で家族の帰りを待っていたときのこと、一夜明けて翌日になっても帰ってこなかったときに「ダメなのかも…」という心境だったこと、遺体を捜して安置所を訪ね歩いたことなど、それまでの交流プログラムでは話したことがないような話題を話し合い、分かち合っていた。亡くなったお父さんへの手紙を書いた未就学児がいた。

石巻 RH では、「2 時 46 分には生きていた」と、この時刻に黙祷をしないで、あえていつも通りに館内で過ごす子どもたちの姿があった。

陸前高田 RH、そして釜石市の貸し会場でも、遺児家庭に寄り添う活動を行った。

3 月 11 日は平日 (水曜日) だったため、上記の 4 か所では、日曜日の 3 月 8 日にも同様の取り組みを行った。両日とも、神戸から震災遺児やその保護者が東北の 4 会場を訪れて、遺児家庭同士の交流を深めた

#### ⑤ 15 年 6 月の「世界がわが家」公演に向けた震災遺児の練習

震災遺児 10 人がキャストとして出演し、合唱と群読を行うことになり、仙台 RH 等で練習を行った。合唱と群読の台本には、震災当時のつらい体験を思い起こさせる可能性がある表現が含まれるため、PTSD 等の発症などがないよう、子どもと保護者へのサポートを丁寧に行った。必要に応じて職員による家庭訪問も実施した。

#### ⑥ 神戸レインボーハウスでの交流

阪神大震災から 20 年目の 1 月、神戸 RH で行われた「今は亡き愛する人を偲び話し合う会」へ、東北の震災遺児と保護者が参加。追悼セレモニー後の座談会では、東北と神戸の遺児家庭同士で互いの体験を分かち合った。

⑦ 海外でのホームステイなどのご招待

各国現地団体のご協力を得て、オーストラリア・キャンベラへ中高生 8 人、米国ニューヨークへ小学生 2 人、米国サンディエゴへ大学生 2 人が参加。現地でのホームステイなど、貴重な海外体験の機会をいただいた。

⑧ イベントご招待など様々なご支援

企業からのご招待で 10 月に種子島での宇宙教室（ロケット打ち上げ見学など）に震災遺児家庭 5 世帯 9 人が参加した。3 月には東京ドームでの野球イベント（元大リーグの松井氏、ジーター氏が参加）に招待され、15 世帯、子ども 20 人、保護者 17 人が参加した。ポケモン様が 12 月に郡山市で開催したクリスマスイベントには、福島県の震災遺児家庭 3 世帯が参加。5 月の子どもの日や 12 月のクリスマスには製菓会社からお菓子の詰め合わせを子どもたちにプレゼントしていただいた。その他にも、プロ野球やコンサートのチケットプレゼント、レインボーハウスでのミニコンサート開催などで、さまざまな企業・団体にご支援いただいた。

(3) ファシリテーター養成

震災遺児の心に寄り添うファシリテーターを養成するため、石巻 RH と岩手県一関市の 2 会場でファシリテーター養成講座を開催し、23 人が修了した。この講座の冒頭には、神戸震災遺児とその保護者が、震災から 20 年の体験談を語る講演会を行った。東北でのファシリテーター養成講座の修了者の累計は 350 人となった。また、既存のファシリテーターのフォローアップを目的に、ファシリテーター交流会を仙台 RH にて 7 月に開催した。完成した RH を見て、大きな期待を抱く方が多かった。

(4) 地域との連携

東北 RH は「震災から 10 年目の地域還元」をめざし、地域との関係づくりを進めている。地元さまざまな団体からの利用相談も増えてきた。

① 仙台レインボーハウス

- ・仙台市教育委員会が、中学生の適応指導教室（不登校の子どもへの援助を行う教室）として専用利用。14 年度は 21 人の生徒が登録、通級した。
- ・「NPO 法人子どもグリーンサポートステーション」と協働して、仙台ワンデイプログラムを毎月 2 回、合同開催。
- ・宮城県内で生活困窮世帯の学習支援に取り組んでいる「NPO 法人アスイク」が、平日夕方方に毎週 2 日、教室として利用。10～15 人の中学生が通った。10～12 月、および 2～3 月の日曜日には、中学 3 年生対象の受験対策プログラムの会場としても利用。このプログラムは、「NPO 法人 Teach For Japan」の学生スタッフがボランティアで講師を務めての個別指導。
- ・仙台市、名取市の中学校の養護教諭らが、研修と見学で訪問。

② 石巻レインボーハウス

- ・子育て支援活動を行っている「NPO 法人ベビースマイル石巻」が、毎週 1 回、新生児と

母親を対象に、ベビーマッサージの講座や子育て相談などで活用。毎回 20 人前後が参加。

### ③ 陸前高田レインボーハウス

- ・「岩手県里親会」が里親同士の交流サロンを 3 回開催。
- ・地域の子どもの遊び場として、「きらりんきっず」、「竹駒保育園」、「東日本大震災いわて子ども支援センター」へ、および母親向けの料理教室で「まあむたかた」へ、それぞれ会場提供。
- ・支援者向け研修会場として、「いわて子どもケアセンター」、「いわてアートサポートセンター」が利用。

### (5) 津波遺児家庭調査委託事業活動

津波遺児家庭に関する調査は、副田義也・筑波大学名誉教授に委託し、11 年度から 10 年におよぶ計画で始まった。13 年度に、津波遺児 90 世帯の保護者への訪問インタビュー調査を実施した。14 年度はその分析とケース記録をまとめ、記録集を発行した。

## 7. 海外遺児支援事業

06 年から始まった海外遺児の日本への大学留学は 10 か国から 47 人となる。現在は高校（仙台育英学園）にも 4 人が留学している。米国にはすでに 3 人が入学を果たし、15 年度には「アフリカ 100 年構想第一期生」として、世界の大学留学に 10 人が目指している。「賢人達人会」のメンバー 60 人とあしなが元インターン生ら 117 人の「老・壮・青」が一体となって、アフリカ遺児の高等教育を応援する体制になってきた。

### (1) 海外遺児の日本留学支援事業

新たにウガンダ人 5 名（明治大学 1 人、関西学院大学 2 人、同志社大学 1 人）、ルワンダ 1 人（上智大学）、インドネシア 3 名（関西大学 2 人、広島大学 1 人）の計 9 人が日本に留学。また、新たに仙台育英学園高校に新しく 2 人のウガンダ人が留学し 14 年度までの累計留学生数はのべ 47 人（10 カ国）となった。

一方で、3 人が大学院を卒業し、2 人が日本企業に就職。1 人があしなが育英会の職員となった。その他、6 人が大学を卒業、2 人が 1 年間の留学を終えた。

### (2) アフリカ遺児高等教育支援 100 年構想事業

14 年 7 月に本会役職員がチームに分かれ各国を訪問し、現地日本大使館や有識者の協力で面接を実施し、各国から 1 名を選出した。10 月から「アフリカ遺児高等教育支援 100 年構想事業」第一期生として 10 か国 10 人が「あしながウガンダ」に集結し、世界トップの大学を目指して 3 か月間の勉強合宿を行った。この勉強合宿では本会のサマンサ職員（米国ヴァッサー大出身）とサイモン職員（英オックスフォード大出身）が、遺児学生一人ひとりと面談を重ねて大学を選定し、受験勉強と出願をサポートした。また、15 年 7 月に竣工予定の「ウガンダ心塾」で塾監を目指すあしながウガンダ出身で本会の支援で日本留学を果たしたマトブ職員（早稲田大卒）とクリスティーン職員（国際基督教大卒）が生活指導を担当した。4 人の職員のおかげで、第一期生 10 人は、ロンドン大学東洋アフリカ学院（SOAS）、ダラム大学（Durham、英国）といった世界ランキング 100 位に入る大学に次々と合格している。15 年 7 月に彼ら 10 人は再びウガンダに集まり、「ウガンダ心塾」で貧困削減に貢献するリーダーを目指して 1 か月間の「心塾教育」を受ける。

### (3) 賢人達人会

「アフリカ遺児高等教育支援 100 年構想事業」を支えるための諮問機関として「賢人達人会」が発足した。構成メンバーである賢人達は、世界中から、その国を代表する知識と見識の持ち主や国民の尊敬と人気を集める方々を各国の日本大使館等のご協力を得て選抜の上ご就任を依頼しており、100 人の就任を目標としている。「賢人達人」に対しては、広告塔として本構想事業の信用を高めていただくと共に、「100 年構想」実現のため、必要に応じて有用なアドバイスやサポートをいただくことを期待している。

13 年より開始した賢人達人探しは 14 年に入り本格化。15 年 3 月までにヨーロッパから 25 人、北米から 13 人、中南米から 11 人、日本を含むアジアから 5 人、合計 54 人の方に賢人達人就任を受諾いただいた。15 年 6 月 13 日にワシントンにおいて初めての「賢人達人会総会」を予定しており、賢人達人の方々を世界中から招聘し、「100 年構想」実現のための真剣な議論をしていただく予定である。

### (4) 小説「あしながおじさん」出版 100 周年記念事業

コラボレーション公演「世界がわが家」は、「アフリカ遺児高等教育支援 100 年構想」を世界へ呼びかけ、協賛者を増やしていくために行う啓発と PR イベントとして取り組んでいる。14 年 3 月の公演では多くの感動と共感を得て 100 年構想への弾みをつけたのみならず、参加者が異文化のぶつかり合いの中から成長する教育効果も見られ、教育により遺児を救済するあしなが育英会の理念を具現するイベントとなった。

15 年 6 月の世界ツアーでは遺児の留学先候補となる有力大学の関係者へのアピール、観客及びメディアへの啓発と PR により、世界規模で寄付を募る本格的なファンレイジングの開始とする。また東北の津波遺児を中心とした遺児の教育事業の一環として、教育の機会の大切さを訴えるコラボレーション公演「世界がわが家」を活用する。太鼓隊の他に群読・合唱隊を加える編成とした。その準備の年としての 14 年度は、①参加メンバーの編成・指導体制・参加環境の準備、②公演劇場確保・制作委託先の選定および公演に向けた準備、③公演関係の専門家の選定、④海外ツアーに必要なロジスティック全般の準備などを行った。ヴァッサー大学との関係も良好にこれらの準備が進められた。

### (5) ウガンダ寺子屋教育支援事業・ケア活動

寺子屋では 21 人の新入生を迎えて、15 人の生徒がカリキュラムを終了、地元の小学校 5 年次に編入を果たした。また 7 人が小学校を卒業し、中学校に進学した。全国小学校卒業試験では、寺子屋の卒業生があしながウガンダの登録遺児の中でも最高点を獲得した。また「世界がわが家」のために、週 2 回の伝統ダンス及びコーラスの練習を継続した。

教育事業では新たに 7 人の学生がリーダー育成奨学金で中学 1 年、高校 1、2 年に進学、また日本留学として関西学院大学に 2 人、同志社大学に 1 人、また仙台育英学園（高校）に 2 人が進学を果たした。

### (6) ウガンダ心塾建設

14 年 10 月 3 日に第 2 期工事の契約を結び、女子寮、スタッフ棟、事務所、外壁などの工事建設を開始した。第 1 期工事に引き続き、現地での材料を使用し、100 年構想候補生らがよりよい環境で学ぶことのできる建物を目指して随所に工夫を凝らしている。工事は 15 年 6 月末に竣工、7 月中旬に開塾を予定している。



## (7) 海外拠点設立準備

本会の「アフリカ遺児高等教育支援 100 年構想事業」の実現に向けて、世界中から「あしながさん（“やさしさ”）」を募ることになった。そこで、寄付文化が盛んな米国に拠点を設置するため、14 年 12 月に「Ashinaga Inc.」を設立し米国での法人格を取得した。そして、15 年 5 月に各種 NGO、世界銀行、国際通貨基金（IMF）等の本部や著名なシンクタンク、大学が置かれている、グローバル政治都市である、ワシントン D. C. に事務所を開設する。本会職員 2 名が米国拠点の準備を担当。米国内で寄付を集めるためには、内国税法 501(c) (3) の適用を受け、寄付金控除の対象法人となることが必須であるため、現在、501(c) (3) の適用を米国国税庁に申請中。在米日本国大使館にご紹介いただいた「モルガン・ルイス&バッキアス外国法事務法律事務所」の弁護士の方々にプロボノで手続きを引き受けていただいた。

更に、「アフリカ遺児高等教育支援 100 年構想事業」をアフリカ西部地域・仏語圏にて推進していくための拠点を「西アフリカの玄関」と称されるセネガル共和国に設置することになった。セネガル共和国での NGO 団体登録等を行うため、14 年 10 月から本会職員 2 名が現地に入り、準備を進めてきた。15 年 7 月下旬から「アフリカ 100 年構想」第二期生のうち仏語圏に進学を希望している学生の合宿をセネガル拠点で行うため、仮設心塾の物件確保、準備等を行った。NGO 登録は 15 年 7 月上旬に完了予定。

## (8) ウガンダ・エイズ遺児教育調査

14 年 8 月、副田義也副会長を団長とする調査団をウガンダに派遣し、あしながウガンダの教育活動の本格的調査に着手した。今回はウガンダ寺子屋の調査を多様な角度から行った。この調査では、在学中のエイズ遺児 59 人、卒業したエイズ遺児 39 人、かれらの保護者 88 人をインタビューし、その結果を統計的に処理した膨大なデータから、家族、貧困、教育それぞれのデータとしてまとめた。エイズ遺児の実態調査資料として、「アフリカ遺児高等教育支援 100 年構想事業」に活用したい。

## 8. 募金事業

14 年度の寄付総額は 46 億 5590 万 4921 円で、13 年度比 3% の減少となった。15 年 3 月末に受付を終了した東北レインボーハウス建設募金が約 12 億円の減少となったものの、新規に設置した東日本大震災遺児支援募金への寄付額が 9 億 5 千万円を超えた。本会の活動全般への寄付が遺贈寄付の増加等により 2 割増加した。前年度に続き、2014 年（暦年）のご寄付者全員に受領証明証を発送する際に「アフリカ遺児教育支援」の振込用紙を同封したところ、寄付額が約 8 割増加した。寄付件数は 38 万 73 件で 13 年度比 7.2% の減少となった。88 年からの寄付累計額は 637 億 6617 万 1484 円（561 万 9976 件）となった。

### (1) あしながさん寄付

継続寄付をいただくあしながさん寄付は 14 年度中に新たに 1,590 人の申込みをいただいた。寄付額は 13 億 4756 万 1212 円で 2% の減少だった。寄付件数は 26 万 3122 件で 3% の減少となった。

### (2) 虹のかけはし会員

神戸レインボーハウスの建物の維持管理費、運営資金を継続的に支援する「虹のかけはし会員」に新たに 403 人の申込みがあったが、寄付額は 1 億 1121 万 3439 円で前年とほぼ同額とな

った。寄付件数は4万6013件で2%減少した。

(3) 一般寄付

奨学金や心のケア活動など本会の事業全般に対するご寄付は、13年度に比べ、件数が2万1716件で2.3%減少したが、遺贈など高額寄付が増えたためご寄付額は20%増加し、過去最高額となる17億9947万899円となった。

(4) あしなが学生募金

あしなが学生募金事務局は病気・災害・自死遺児の奨学金のために、第88回募金を4月19・20・26・27日に参加1,232団体で、第89回募金を10月18・19・25・26日に参加1,081団体で、それぞれ全国約200拠点で実施し、募金額は第88回1億3659万2133円、第89回1億1366万4997円、寄付累計額は75億6314万1997円となった。

本会では募金経費の全額を負担するとともに、職員が担当地区で学生の活動を支援した。

(5) あしながPウォーク10

第41回あしながPウォーク10は、ウガンダのエイズ遺児への教育支援を訴え全55コース(2コースが悪天候のため中止になった)で実施し、15,238人が参加した。参加費収入の合計(受取利息含む)は、6,634,800円で、総経費を上回ったため、本会からの負担金はなかった。なお、主旨にご賛同いただいた企業、個人の方々から3,836,299円のご寄付があり、全額が貧困の連鎖に苦しむウガンダのエイズ遺児の寺子屋教育運営費と、初等・中等教育の給付型奨学金として、本会の“ウガンダのかけはしさん”口座へ寄付された。

(6) あしなが東日本大震災遺児支援募金

「あしなが東北レインボーハウス建設募金」受付終了に伴い、東日本大震災遺児支援活動全般の資金として「あしなが東日本大震災遺児支援募金」を新規に設置した。14年度の寄付額は9億5393万円(4万1751件)で、特別一時金などに充てた「あしなが東日本大地震・津波遺児募金」を合わせた11年3月からの累計は71億6367万7350円(29万2544件)となった。

(7) 東北レインボーハウス建設募金

14年3月末をもって「あしなが東北レインボーハウス建設募金」の新規の受付を終了したが、振込用紙発送済みの方や当初14年4月以降まで寄付が継続することが決まっていた団体などから、振替口座が閉鎖されるまでの期間に3801万4853円のご寄付があり、累計は49億8167万6240円(4万9212件)となった。

## (8) 寄付実績

	2014年度			累計	
	金額(円)	前年比	振込件数	金額(円)	振込件数
あしながさん	1,347,561,212	97.91%	263,122	23,970,741,935	4,168,134
一般寄付 (※1)	1,799,470,899	120.42%	21,716	18,941,319,423	289,431
虹のかけはし	111,213,439	100.31%	46,013	2,111,575,854	640,433
あしながレインボーハウス募金	5,951,714	33.35%	291	67,528,931	4,939
学生寮あしなが心塾	1,216,802	73.58%	190	1,094,801,346	33,480
がん遺児	4,032,768	95.44%	219	510,250,322	9,708
海外遺児心の支援	338,054,334	137.78%	332	1,695,280,320	20,700
ウガンダかけはし (※2)	10,973,338	86.73%	999	126,750,784	14,242
アフリカ遺児教育支援	45,482,473	185.32%	3,252	99,281,051	9,009
東日本大地震・津波遺児	953,933,089	378.00%	41,751	7,163,677,350	292,544
東北レインボーハウス募金	38,014,853	3.00%	2,188	4,981,676,240	49,212
あしなが虹の家建設	0	-	0	840,814,366	40,568
インド洋大津波遺児募金	0	-	0	22,688,115	1,984
震災遺児	0	-	0	674,169,107	14,039
神戸虹の家建設	0	-	0	1,451,818,260	30,816
医師口	0	-	0	5,945,900	478
その他	0	-	0	7,852,180	259
合計	4,655,904,921	96.82%	380,073	63,766,171,484	5,619,976

注1 (※)には下記の募金額を含む

(※1) 第88回あしなが学生募金事務局 136,592,133円

第89回あしなが学生募金事務局 113,664,997円

(※2) 第41回あしながPウォーク10実行委員会 3,836,299円

注2 東北レインボーハウス建設募金について新規の受付は2014年3月末で終了したが、振込用紙発送済みの方や2014年4月以降まで寄付が継続することが決まっていた団体などから口座が閉鎖されるまでの期間に入金されたもの。

奨学生現況表

2015年3月31日現在

	高等学校・高等専門学校									高校 総計	専修 各種	大学	大学 学院	総合計
	全日制			定時制・通信制			高等専門学校							
	公立	私立	合計	公立	私立	合計	公立	私立	合計					
北海道	107	58	165	7	4	11	0	0	0	176	25	50	0	251
青森	72	41	113	3	1	4	0	0	0	117	11	29	1	158
岩手	59	21	80	0	2	2	0	0	0	82	4	25	1	112
宮城	86	32	118	5	5	10	0	0	0	128	5	51	0	184
秋田	28	8	36	0	0	0	0	0	0	36	3	9	0	48
山形	51	25	76	2	0	2	0	0	0	78	7	20	0	105
福島	37	26	63	2	1	3	0	0	0	66	7	36	0	109
茨城	55	12	67	4	3	7	0	0	0	74	9	25	0	108
栃木	34	18	52	6	4	10	0	0	0	62	3	21	0	86
群馬	27	17	44	2	2	4	0	0	0	48	5	28	0	81
埼玉	46	21	67	6	9	15	0	0	0	82	5	48	3	138
千葉	50	25	75	2	8	10	0	0	0	85	9	38	1	133
東京	88	71	159	17	14	31	0	0	0	190	20	134	0	344
神奈川	49	46	95	3	7	10	0	0	0	105	19	56	0	180
新潟	41	22	63	3	2	5	0	0	0	68	11	25	1	105
富山	13	9	22	0	0	0	0	0	0	22	3	11	0	36
石川	9	4	13	0	0	0	0	0	0	13	3	8	0	24
福井	11	2	13	1	2	3	0	0	0	16	0	7	1	24
山梨	21	7	28	2	3	5	0	0	0	33	2	18	0	53
長野	34	12	46	1	3	4	0	0	0	50	6	18	0	74
岐阜	48	17	65	6	6	12	0	0	0	77	3	21	0	101
静岡	33	25	58	6	2	8	0	0	0	66	8	33	0	107
愛知	41	48	89	7	9	16	0	0	0	105	7	48	0	160
三重	23	9	32	3	3	6	0	0	0	38	5	19	1	63
滋賀	23	8	31	1	4	5	0	0	0	36	3	22	1	62
京都	22	30	52	0	3	3	0	0	0	55	7	34	1	97
大阪	130	128	258	1	18	19	3	0	3	280	16	111	3	410
兵庫	95	62	157	7	8	15	0	0	0	172	7	70	1	250
奈良	25	5	30	0	1	1	0	0	0	31	3	20	0	54
和歌山	17	2	19	0	0	0	0	0	0	19	2	10	1	32
鳥取	7	6	13	1	0	1	0	0	0	14	5	8	0	27
島根	15	7	22	1	3	4	0	0	0	26	3	9	0	38
岡山	27	20	47	6	2	8	0	0	0	55	4	18	0	77
広島	61	13	74	2	10	12	0	0	0	86	12	47	0	145
山口	18	10	28	2	0	2	0	0	0	30	4	16	1	51
徳島	13	0	13	2	0	2	0	0	0	15	1	7	0	23
香川	23	6	29	0	2	2	0	0	0	31	2	10	0	43
愛媛	47	30	77	1	0	1	0	0	0	78	6	19	0	103
高知	21	6	27	3	2	5	0	0	0	32	2	8	0	42
福岡	77	64	141	6	9	15	0	0	0	156	11	77	0	244
佐賀	38	22	60	1	0	1	0	0	0	61	7	12	0	80
長崎	61	40	101	4	6	10	0	0	0	111	8	23	0	142
熊本	54	21	75	2	2	4	0	0	0	79	9	21	0	109
大分	29	14	43	2	1	3	0	0	0	46	7	10	0	63
宮崎	44	35	79	3	1	4	0	0	0	83	11	15	0	109
鹿児島	66	43	109	1	7	8	0	0	0	117	13	27	0	157
沖縄	85	5	90	4	3	7	0	0	0	97	8	38	0	143
合計	2061	1153	3214	138	172	310	3	0	3	3527	331	1410	17	5285
休停止	6	10	16	10	5	15				31	13	66	1	111
総合計	2067	1163	3230	148	177	325	3	0	3	3558	344	1476	18	5396

貸与回収台帳

2015年3月31日現在

2014年4月～2015年3月

一般貸与	繰越		貸与額(当月)		合計 a	
	年度	総累計	件数	金額	年度	総累計
高校	1,225,065,000	24,539,250,000	9	720,000	1,225,785,000	24,539,970,000
大学	831,480,000	12,306,640,000	4	660,000	832,140,000	12,307,300,000
専・各	160,800,000	1,567,240,000	1	120,000	160,920,000	1,567,360,000
大学院	16,320,000	243,840,000	0	0	16,320,000	243,840,000
合計	2,233,665,000	38,656,970,000	14	1,500,000	2,235,165,000	38,658,470,000

オンコ貸与・給付	繰越		貸与額(当月)		合計 b	
	年度	総累計	件数	金額	年度	総累計
貸与額	4,200,000	236,175,000	0	0	4,200,000	236,175,000
給付額	4,200,000	236,175,000	0	0	4,200,000	236,175,000
合計	8,400,000	472,350,000	0	0	8,400,000	472,350,000

貸与合計(一般・オンコ)	繰越		貸与額(当月)		合計A(a+b)	
	年度	総累計	件数	金額	年度	総累計
高校	1,225,065,000	24,539,250,000	9	720,000	1,225,785,000	24,539,970,000
大学	835,680,000	12,542,815,000	4	660,000	836,340,000	12,543,475,000
専・各	160,800,000	1,567,240,000	1	120,000	160,920,000	1,567,360,000
大学院	16,320,000	243,840,000	0	0	16,320,000	243,840,000
合計	2,237,865,000	38,893,145,000	14	1,500,000	2,239,365,000	38,894,645,000

返還	繰越		返還額(当月)		合計B	
	年度	総累計	件数	金額	年度	総累計
高校	903,273,142	10,018,337,520	6,659	50,530,441	953,803,583	10,068,867,961
大学	442,582,000	4,467,091,289	1,969	24,368,900	466,950,900	4,491,460,189
専・各	57,232,606	484,125,106	458	3,519,371	60,751,977	487,644,477
大学院	7,334,600	53,991,400	39	346,000	7,680,600	54,337,400
合計	1,410,422,348	15,023,545,315	9,125	78,764,712	1,489,187,060	15,102,310,027

返還免除	繰越				免除額(当月)		合計C				貸与残高(A-B-C)	
	年度		総累計				年度		総累計			
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	年度	総累計
高校	33	21,956,450	249	165,554,681	0	0	33	21,956,450	249	165,554,681	250,024,967	14,305,547,358
大学	5	4,896,000	46	61,575,185	0	0	5	4,896,000	46	61,575,185	364,493,100	7,990,439,626
専・各	6	5,553,000	19	16,417,000	0	0	6	5,553,000	19	16,417,000	94,615,023	1,063,298,523
大学院	0	0	1	1,840,000	0	0	0	0	1	1,840,000	8,639,400	187,662,600
合計	44	32,405,450	315	245,386,866	0	0	44	32,405,450	315	245,386,866	717,772,490	23,546,948,107

返還率	年度返還率				総返還率			
	要返還額	返還額	滞納額	返還率	要返還額	返還額	滞納額	返還率
高校	1,065,691,272	953,803,583	111,887,689	89.50%	10,515,347,122	10,068,867,961	446,479,161	95.75%
大学	490,073,650	466,950,900	23,122,750	95.28%	4,579,456,624	4,491,460,189	87,996,435	98.08%
専・各	66,793,606	60,751,977	6,041,629	90.95%	509,634,606	487,644,477	21,990,129	95.69%
大学院	7,941,600	7,680,600	261,000	96.71%	54,727,400	54,337,400	390,000	99.29%
合計	1,630,500,128	1,489,187,060	141,313,068	91.33%	15,659,165,752	15,102,310,027	556,855,725	96.44%

2014年4月～2015年3月

オンコ 貸与・給付 内訳		繰越		貸与額(当月)		合計A	
		年度	総累計	件数	金額	年度	総累計
貸与	大 学	420,000	236,175,000	0	0	420,000	236,175,000
	専・各	0	0	0	0	0	0
	大学院	0	0	0	0	0	0
	計	420,000	236,175,000	0	0	420,000	236,175,000
給付	大 学	420,000	236,175,000	0	0	420,000	236,175,000
	専・各	0	0	0	0	0	0
	大学院	0	0	0	0	0	0
	計	420,000	236,175,000	0	0	420,000	236,175,000
合計	大 学	840,000	472,350,000	0	0	840,000	472,350,000
	専・各	0	0	0	0	0	0
	大学院	0	0	0	0	0	0
	合計	840,000	472,350,000	0	0	840,000	472,350,000

2014年度収支計算書

自 2014年4月1日  
至 2015年3月31日

(単位:円)

科 目	予 算 額 (補正後)			予算額合計	決 算 額				増 減 (補正後予算額合計 - 決算額)
	一般会計	東日本大地震 津波特別会計	法人会計		一般会計	東日本大地震 津波特別会計	法人会計	合 計	
1. 収入の部									
寄付金収入	3,300,000,000	1,000,000,000	-	4,300,000,000	3,217,367,066	991,947,942	223,146,564	4,432,461,572	△132,461,572
財産運用収入	2,500,000	-	-	2,500,000	-	508,755	2,064,717	2,573,472	△73,472
奨学貸与金返還収入	1,400,000,000	-	-	1,400,000,000	1,489,187,060	-	-	1,489,187,060	△89,187,060
寮費収入	13,000,000	-	-	13,000,000	10,643,500	-	-	10,643,500	2,356,500
印税収入	2,500,000	-	-	2,500,000	-	-	-	-	2,500,000
その他収入	700,000	-	-	700,000	602,610	197,132	1,260,488	2,060,230	△1,360,230
退職給付引当資産取崩収入	-	-	-	-	13,360,876	357,600	3,580,029	17,298,505	△17,298,505
オンコ奨学貸与積立金取崩収入	-	-	-	-	8,400,000	-	-	8,400,000	△8,400,000
糸永奨学基金積立金取崩収入	-	-	-	-	2,500,000	-	-	2,500,000	△2,500,000
東北RH建設資金取崩収入	-	307,600,000	-	307,600,000	-	-	-	-	307,600,000
東日本大震災遺児支援積立金より繰入	-	-	-	-	-	604,764,279	-	604,764,279	△604,764,279
建物修繕積立金取崩収入	37,000,000	-	-	37,000,000	35,586,000	-	-	35,586,000	1,414,000
差入保証金戻り収入	-	-	-	-	15,000	2,249,000	-	2,264,000	△2,264,000
前期経費前払金戻り収入	-	-	-	-	30,910,102	1,000,000	-	31,910,102	△31,910,102
金銭信託換金収入	-	-	-	-	19,053,695	-	-	19,053,695	△19,053,695
一般会計より繰入	-	-	237,400,000	237,400,000	-	-	-	-	237,400,000
当期収入合計	4,755,700,000	1,307,600,000	237,400,000	6,300,700,000	4,827,625,909	1,601,024,708	230,051,798	6,658,702,415	△358,002,415
前期繰越収支差額	930,000,000	1,334,000,000	-	2,264,000,000	2,092,484,360	528,495,792	4,018,928	2,624,999,080	△360,999,080
収入合計	5,685,700,000	2,641,600,000	237,400,000	8,564,700,000	6,920,110,269	2,129,520,500	234,070,726	9,283,701,495	△719,001,495





(単位:円)

科 目	予 算 額 (補正後)			予算額合計	決 算 額			合 計	増 減 (補正後予算額合計 -決算額)
	一般会計	東日本大地震 津波特別会計	法人会計		一般会計	東日本大地震 津波特別会計	法人会計		
(4) 心のケア事業費									
つどい開催費									
旅費交通費	77,000,000	-	-	77,000,000	72,287,736	-	-	72,287,736	4,712,264
通信運搬費	1,200,000	-	-	1,200,000	1,090,236	-	-	1,090,236	109,764
什器備品費	400,000	-	-	400,000	272,160	-	-	272,160	127,840
消耗品費	900,000	-	-	900,000	637,383	-	-	637,383	262,617
印刷製本費	1,300,000	-	-	1,300,000	1,109,786	-	-	1,109,786	190,214
光熱水料費	100,000	-	-	100,000	142,674	-	-	142,674	△42,674
賃借料	2,800,000	-	-	2,800,000	1,936,966	-	-	1,936,966	863,034
保険料	2,200,000	-	-	2,200,000	966,772	-	-	966,772	1,233,228
委託費	500,000	-	-	500,000	1,825,244	-	-	1,825,244	△1,325,244
謝金	900,000	-	-	900,000	696,466	-	-	696,466	203,534
雑費	300,000	-	-	300,000	568,958	-	-	568,958	△268,958
計	87,600,000	-	-	87,600,000	81,534,381	-	-	81,534,381	6,065,619
あしながレインボーハウスケア活動費									
旅費交通費	5,000,000	-	-	5,000,000	5,077,189	-	-	5,077,189	△77,189
通信運搬費	300,000	-	-	300,000	508,429	-	-	508,429	△208,429
什器備品費	500,000	-	-	500,000	314,528	-	-	314,528	185,472
消耗品費	700,000	-	-	700,000	574,144	-	-	574,144	125,856
印刷製本費	1,300,000	-	-	1,300,000	145,128	-	-	145,128	1,154,872
光熱水料費	3,300,000	-	-	3,300,000	3,532,593	-	-	3,532,593	△232,593
賃借料	300,000	-	-	300,000	1,171,120	-	-	1,171,120	△871,120
保険料	300,000	-	-	300,000	187,970	-	-	187,970	112,030
委託費	2,400,000	-	-	2,400,000	2,502,920	-	-	2,502,920	△102,920
支払修繕費	3,400,000	-	-	3,400,000	875,470	-	-	875,470	2,524,530
給食費	2,300,000	-	-	2,300,000	1,885,476	-	-	1,885,476	414,524
租税公課	800,000	-	-	800,000	681,420	-	-	681,420	118,580
雑費	200,000	-	-	200,000	121,220	-	-	121,220	78,780
計	20,800,000	-	-	20,800,000	17,577,607	-	-	17,577,607	3,222,393
神戸レインボーハウスケア活動費									
旅費交通費	3,000,000	-	-	3,000,000	6,647,375	-	-	6,647,375	△3,647,375
通信運搬費	500,000	-	-	500,000	322,566	-	-	322,566	177,434
什器備品費	1,000,000	-	-	1,000,000	414,644	-	-	414,644	585,356
消耗品費	500,000	-	-	500,000	444,222	-	-	444,222	55,778
印刷製本費	200,000	-	-	200,000	82,374	-	-	82,374	117,626
光熱水料費	2,100,000	-	-	2,100,000	2,524,266	-	-	2,524,266	△424,266
賃借料	900,000	-	-	900,000	2,219,666	-	-	2,219,666	△1,319,666
保険料	100,000	-	-	100,000	36,565	-	-	36,565	63,435
委託費	2,500,000	-	-	2,500,000	2,376,708	-	-	2,376,708	123,292
支払修繕費	8,600,000	-	-	8,600,000	269,244	-	-	269,244	8,330,756
謝金	-	-	-	-	6,000	-	-	6,000	△6,000
給食費	1,500,000	-	-	1,500,000	1,045,977	-	-	1,045,977	454,023
租税公課	800,000	-	-	800,000	1,025,700	-	-	1,025,700	△225,700
雑費	600,000	-	-	600,000	442,767	-	-	442,767	157,233
計	22,300,000	-	-	22,300,000	17,858,074	-	-	17,858,074	4,441,926
給料手当等									
給与手当	45,000,000	-	-	45,000,000	34,785,280	-	-	34,785,280	10,214,720
法定福利費	6,100,000	-	-	6,100,000	7,830,552	-	-	7,830,552	△1,730,552
職員研修費	500,000	-	-	500,000	-	-	-	-	500,000
計	51,600,000	-	-	51,600,000	42,615,832	-	-	42,615,832	8,984,168
心のケア事業費合計	182,300,000	-	-	182,300,000	159,585,894	-	-	159,585,894	22,714,106
(5) 広報・調査研究事業費									
機関紙発行費									
旅費交通費	600,000	-	-	600,000	256,742	-	-	256,742	343,258
通信運搬費	36,000,000	-	-	36,000,000	25,580,264	-	-	25,580,264	10,419,736
消耗品費	-	-	-	-	127,933	-	-	127,933	△127,933
印刷製本費	7,500,000	-	-	7,500,000	6,781,904	-	-	6,781,904	718,096
光熱水料費	-	-	-	-	142,674	-	-	142,674	△142,674
賃借料	-	-	-	-	1,396,842	-	-	1,396,842	△1,396,842
委託費	7,000,000	-	-	7,000,000	5,646,574	-	-	5,646,574	1,353,426
雑費	300,000	-	-	300,000	35,484	-	-	35,484	264,516
計	51,400,000	-	-	51,400,000	39,968,417	-	-	39,968,417	11,431,583
広報費									
旅費交通費	-	-	-	-	491,914	-	-	491,914	△491,914
印刷製本費	200,000	-	-	200,000	61,117	-	-	61,117	138,883
委託費	8,500,000	-	-	8,500,000	6,681,824	-	-	6,681,824	1,818,176
A C 広告制作費	-	-	-	-	5,837	-	-	5,837	△5,837
雑費	100,000	-	-	100,000	152,607	-	-	152,607	△52,607
計	8,800,000	-	-	8,800,000	7,393,299	-	-	7,393,299	1,406,701
調査・研究費									
旅費交通費	12,000,000	-	-	12,000,000	9,742,128	-	-	9,742,128	2,257,872
通信運搬費	1,100,000	-	-	1,100,000	601,414	-	-	601,414	498,586
消耗品費	-	-	-	-	75,552	-	-	75,552	△75,552
印刷製本費	800,000	-	-	800,000	274,999	-	-	274,999	525,001
賃借料	300,000	-	-	300,000	400,043	-	-	400,043	△100,043
委託費	1,400,000	-	-	1,400,000	1,512,106	-	-	1,512,106	△112,106
雑費	300,000	-	-	300,000	270,327	-	-	270,327	29,673
計	15,900,000	-	-	15,900,000	12,876,569	-	-	12,876,569	3,023,431
給料手当等									
給与手当	13,900,000	-	-	13,900,000	14,668,882	-	-	14,668,882	△768,882
法定福利費	2,100,000	-	-	2,100,000	2,157,110	-	-	2,157,110	△57,110
退職給付支出	-	-	-	-	2,426,655	-	-	2,426,655	△2,426,655
職員研修費	300,000	-	-	300,000	-	-	-	-	300,000
計	16,300,000	-	-	16,300,000	19,252,647	-	-	19,252,647	△2,952,647
広報・調査研究事業費合計	92,400,000	-	-	92,400,000	79,490,932	-	-	79,490,932	12,909,068

(単位:円)

科 目	予 算 額 (補正後)			予算額合計	決 算 額			増 減 (補正後予算額合計 - 決算額)
	一般会計	東日本大地震 津波特別会計	法人会計		一般会計	東日本大地震 津波特別会計	法人会計	
(6) 海外遺児支援事業費								
海外遺児支援費								
旅費交通費	1,700,000	-	-	1,700,000	3,063,322	-	-	3,063,322
通信運搬費	1,300,000	-	-	1,300,000	1,692,208	-	-	1,692,208
什器備品費	600,000	-	-	600,000	1,167,372	-	-	1,167,372
消耗品費	500,000	-	-	500,000	639,644	-	-	639,644
印刷製本費	100,000	-	-	100,000	886,125	-	-	886,125
光熱水料費	400,000	-	-	400,000	713,354	-	-	713,354
賃借料	4,200,000	-	-	4,200,000	7,322,210	-	-	7,322,210
委託費	4,500,000	-	-	4,500,000	593,584	-	-	593,584
研修費	1,800,000	-	-	1,800,000	-	-	-	1,800,000
保険料	300,000	-	-	300,000	827,742	-	-	827,742
雑費	100,000	-	-	100,000	-	-	-	100,000
計	15,500,000	-	-	15,500,000	16,905,561	-	-	16,905,561
日本留学支援費								
留学支援費	45,000,000	-	-	45,000,000	41,591,471	-	-	41,591,471
旅費交通費	3,500,000	-	-	3,500,000	5,921,277	-	-	5,921,277
通信運搬費	200,000	-	-	200,000	44,382	-	-	44,382
印刷製本費	100,000	-	-	100,000	5,130	-	-	5,130
委託費	2,500,000	-	-	2,500,000	2,536,156	-	-	2,536,156
雑費	500,000	-	-	500,000	396,716	-	-	396,716
計	51,800,000	-	-	51,800,000	50,495,132	-	-	50,495,132
アフリカ遺児欧米留学支援費								
留学支援費	10,000,000	-	-	10,000,000	32,166,254	-	-	32,166,254
留学候補生支援費	9,000,000	-	-	9,000,000	14,937,546	-	-	14,937,546
世界賢人会談	25,000,000	-	-	25,000,000	32,708,884	-	-	32,708,884
委託費	33,500,000	-	-	33,500,000	48,700,184	-	-	48,700,184
計	77,500,000	-	-	77,500,000	128,512,868	-	-	128,512,868
出版100周年記念行事費								
旅費交通費	12,000,000	-	-	12,000,000	5,494,027	-	-	5,494,027
通信運搬費	100,000	-	-	100,000	36,537	-	-	36,537
印刷製本費	100,000	-	-	100,000	260,012	-	-	260,012
賃借料	500,000	-	-	500,000	69,970	-	-	69,970
委託費	8,500,000	-	-	8,500,000	14,956,946	-	-	14,956,946
保険料	500,000	-	-	500,000	86,420	-	-	86,420
謝金	500,000	-	-	500,000	33,249	-	-	33,249
雑費	800,000	-	-	800,000	1,212,650	-	-	1,212,650
計	23,000,000	-	-	23,000,000	22,149,811	-	-	22,149,811
海外活動拠点調査費								
旅費交通費	15,000,000	-	-	15,000,000	9,255,858	-	-	9,255,858
通信運搬費	-	-	-	-	99,235	-	-	99,235
什器備品費	-	-	-	-	357,175	-	-	357,175
賃借料	-	-	-	-	404,898	-	-	404,898
保険料	1,000,000	-	-	1,000,000	39,410	-	-	39,410
委託費	2,000,000	-	-	2,000,000	432,777	-	-	432,777
調査費	3,500,000	-	-	3,500,000	-	-	-	3,500,000
雑費	500,000	-	-	500,000	906,988	-	-	906,988
計	22,000,000	-	-	22,000,000	11,496,341	-	-	11,496,341
給料手当等								
給与手当	92,300,000	-	-	92,300,000	77,219,849	-	-	77,219,849
法定福利費	13,500,000	-	-	13,500,000	9,208,286	-	-	9,208,286
退職給付支出	-	-	-	-	678,777	-	-	678,777
職員研修費	500,000	-	-	500,000	-	-	-	500,000
計	106,300,000	-	-	106,300,000	87,106,912	-	-	87,106,912
海外遺児支援事業費合計	296,100,000	-	-	296,100,000	316,666,625	-	-	316,666,625
(7) ウガンダ事業費								
ウガンダ心塾建設準備費								
旅費交通費	1,000,000	-	-	1,000,000	1,513,866	-	-	1,513,866
什器備品費	9,500,000	-	-	9,500,000	-	-	-	9,500,000
光熱水料費	-	-	-	-	35,316	-	-	35,316
賃借料	500,000	-	-	500,000	538,711	-	-	538,711
委託費	3,600,000	-	-	3,600,000	5,998,436	-	-	5,998,436
雑費	1,000,000	-	-	1,000,000	696,427	-	-	696,427
計	15,600,000	-	-	15,600,000	8,782,756	-	-	8,782,756
ウガンダ心塾運営費								
計	3,000,000	-	-	3,000,000	372,559	-	-	372,559
あしながウガンダ支援費								
計	38,000,000	-	-	38,000,000	43,243,912	-	-	43,243,912
給料手当等								
給与手当	9,100,000	-	-	9,100,000	13,292,261	-	-	13,292,261
法定福利費	1,300,000	-	-	1,300,000	1,803,676	-	-	1,803,676
職員研修費	100,000	-	-	100,000	-	-	-	100,000
租税公課	5,000,000	-	-	5,000,000	-	-	-	5,000,000
計	15,500,000	-	-	15,500,000	15,095,937	-	-	15,095,937
ウガンダ事業費合計	72,100,000	-	-	72,100,000	67,495,164	-	-	67,495,164
(8) 募金事業費								
募金事業費								
旅費交通費	13,000,000	-	-	13,000,000	10,747,827	-	-	10,747,827
通信運搬費	15,700,000	-	-	15,700,000	14,636,443	-	-	14,636,443
什器備品費	3,300,000	-	-	3,300,000	1,014,125	-	-	1,014,125
消耗品費	1,000,000	-	-	1,000,000	326,170	-	-	326,170
印刷製本費	10,000,000	-	-	10,000,000	12,828,851	-	-	12,828,851
光熱水料費	600,000	-	-	600,000	285,343	-	-	285,343
賃借料	5,600,000	-	-	5,600,000	3,497,034	-	-	3,497,034
保険料	900,000	-	-	900,000	1,053,520	-	-	1,053,520
委託費	40,000,000	-	-	40,000,000	7,148,111	-	-	7,148,111
送金手数料	30,000,000	-	-	30,000,000	22,476,464	-	-	22,476,464
書籍購入費	10,000,000	-	-	10,000,000	5,186,555	-	-	5,186,555
雑費	500,000	-	-	500,000	333,249	-	-	333,249
遺贈実行費	5,000,000	-	-	5,000,000	10,381,624	-	-	10,381,624
学生募金経費	50,000,000	-	-	50,000,000	49,026,360	-	-	49,026,360
Pウォーク経費	500,000	-	-	500,000	-	-	-	500,000
計	186,100,000	-	-	186,100,000	138,941,676	-	-	138,941,676
給料手当等								
給与手当	23,000,000	-	-	23,000,000	18,054,011	-	-	18,054,011
法定福利費	3,500,000	-	-	3,500,000	2,601,146	-	-	2,601,146
退職給付支出	-	-	-	-	547,673	-	-	547,673
職員研修費	300,000	-	-	300,000	-	-	-	300,000
計	26,800,000	-	-	26,800,000	21,202,830	-	-	21,202,830
募金事業費合計	212,900,000	-	-	212,900,000	160,144,506	-	-	160,144,506

(単位:円)

科 目	予 算 額 (補正後)			予算額合計	決 算 額			増 減 (補正後予算額合計 - 決算額)
	一般会計	東日本大地震 津波特別会計	法人会計		一般会計	東日本大地震 津波特別会計	法人会計	
(9) 東日本大地震津波被災児支援事業費								
心のケア活動費	-	-	-	-	-	-	-	-
旅費交通費	-	14,000,000	-	14,000,000	-	15,712,339	-	15,712,339
通信運搬費	-	1,000,000	-	1,000,000	-	125,628	-	125,628
什器備品費	-	300,000	-	300,000	-	-	-	300,000
消耗品費	-	400,000	-	400,000	-	418,752	-	418,752
印刷製本費	-	350,000	-	350,000	-	13,510	-	13,510
賃借料	-	200,000	-	200,000	-	251,462	-	251,462
保険料	-	350,000	-	350,000	-	343,890	-	343,890
委託費	-	15,500,000	-	15,500,000	-	7,614,005	-	7,614,005
書籍購入費	-	5,000,000	-	5,000,000	-	-	-	5,000,000
謝金	-	300,000	-	300,000	-	-	-	300,000
給食費	-	2,000,000	-	2,000,000	-	1,570,169	-	1,570,169
雑費	-	200,000	-	200,000	-	174,290	-	174,290
計	-	39,600,000	-	39,600,000	-	26,224,045	-	26,224,045
仙台レインボウハウス運営費								
旅費交通費	-	5,400,000	-	5,400,000	-	2,617,950	-	2,617,950
通信運搬費	-	2,500,000	-	2,500,000	-	2,241,629	-	2,241,629
什器備品費	-	50,000,000	-	50,000,000	-	10,407,164	-	10,407,164
消耗品費	-	800,000	-	800,000	-	1,495,449	-	1,495,449
印刷製本費	-	400,000	-	400,000	-	11,557	-	11,557
光熱水料費	-	4,000,000	-	4,000,000	-	3,523,404	-	476,596
賃借料	-	6,300,000	-	6,300,000	-	3,458,846	-	3,458,846
保険料	-	300,000	-	300,000	-	309,048	-	309,048
委託費	-	16,500,000	-	16,500,000	-	8,497,941	-	8,002,059
支払修繕費	-	500,000	-	500,000	-	2,715,756	-	2,715,756
施設費	-	3,500,000	-	3,500,000	-	-	-	3,500,000
租税公課	-	2,500,000	-	2,500,000	-	14,386,330	-	14,386,330
雑費	-	1,000,000	-	1,000,000	-	561,349	-	561,349
計	-	93,700,000	-	93,700,000	-	50,226,423	-	50,226,423
石巻レインボウハウス運営費								
旅費交通費	-	1,400,000	-	1,400,000	-	1,430,653	-	1,430,653
通信運搬費	-	300,000	-	300,000	-	414,208	-	414,208
什器備品費	-	40,000,000	-	40,000,000	-	6,315,259	-	6,315,259
消耗品費	-	600,000	-	600,000	-	324,145	-	324,145
印刷製本費	-	100,000	-	100,000	-	81,173	-	81,173
光熱水料費	-	1,500,000	-	1,500,000	-	2,731,247	-	2,731,247
賃借料	-	3,000,000	-	3,000,000	-	2,270,292	-	2,270,292
保険料	-	100,000	-	100,000	-	34,085	-	34,085
委託費	-	8,000,000	-	8,000,000	-	4,550,724	-	4,550,724
租税公課	-	1,000,000	-	1,000,000	-	888,380	-	888,380
雑費	-	600,000	-	600,000	-	571,733	-	571,733
計	-	56,600,000	-	56,600,000	-	19,611,899	-	19,611,899
陸前高田レインボウハウス運営費								
旅費交通費	-	1,800,000	-	1,800,000	-	4,220,954	-	4,220,954
通信運搬費	-	300,000	-	300,000	-	431,099	-	431,099
什器備品費	-	40,000,000	-	40,000,000	-	8,050,500	-	8,050,500
消耗品費	-	500,000	-	500,000	-	463,579	-	463,579
印刷製本費	-	100,000	-	100,000	-	56,594	-	56,594
光熱水料費	-	1,300,000	-	1,300,000	-	1,624,861	-	1,624,861
賃借料	-	5,500,000	-	5,500,000	-	6,239,192	-	6,239,192
保険料	-	100,000	-	100,000	-	△5,563	-	△5,563
委託費	-	8,400,000	-	8,400,000	-	4,566,137	-	4,566,137
租税公課	-	-	-	-	-	200	-	△200
給食費	-	-	-	-	-	611,064	-	611,064
雑費	-	600,000	-	600,000	-	425,274	-	425,274
計	-	58,600,000	-	58,600,000	-	26,683,891	-	26,683,891
大槌町準備室運営費								
大槌町準備室運営費計	-	-	-	-	-	40,630	-	40,630
給料手当等	-	-	-	-	-	45,249,466	-	45,249,466
給与手当	-	45,900,000	-	45,900,000	-	6,130,800	-	6,130,800
法定福利費	-	6,700,000	-	6,700,000	-	263,700	-	263,700
退職給付支出	-	-	-	-	-	-	-	-
職員研修費	-	500,000	-	500,000	-	-	-	500,000
計	-	53,100,000	-	53,100,000	-	51,643,966	-	51,643,966
東日本大地震津波被災児支援事業費合計	-	301,600,000	-	301,600,000	-	174,430,854	-	174,430,854
(10) 管理費								
一般管理費								
役員報酬	-	-	79,000,000	79,000,000	-	-	62,739,748	62,739,748
給料手当	-	-	68,400,000	68,400,000	-	-	65,460,155	2,939,845
法定福利費	-	-	18,000,000	18,000,000	-	-	16,254,746	1,745,254
退職給付支出	-	-	-	-	-	-	547,673	△547,673
職員研修費	-	-	5,300,000	5,300,000	-	-	1,367,505	3,932,495
旅費交通費	-	-	8,500,000	8,500,000	-	-	9,580,305	△1,080,305
通信運搬費	-	-	7,300,000	7,300,000	-	-	4,601,959	2,698,041
什器備品費	-	-	6,600,000	6,600,000	-	-	3,303,460	3,296,540
消耗品費	-	-	3,100,000	3,100,000	-	-	1,409,848	1,690,152
印刷製本費	-	-	1,800,000	1,800,000	-	-	2,640,468	△840,468
光熱水料費	-	-	1,100,000	1,100,000	-	-	1,013,663	86,337
賃借料	-	-	3,100,000	3,100,000	-	-	12,041,082	△8,941,082
委託費	-	-	12,100,000	12,100,000	-	-	12,886,163	△786,163
支払修繕費	-	-	100,000	100,000	-	-	93,958	6,042
謝金	-	-	-	-	-	-	573,200	△573,200
保険料	-	-	150,000	150,000	-	-	△278,674	428,674
監査報酬	-	-	4,000,000	4,000,000	-	-	4,095,000	△95,000
租税公課	-	-	150,000	150,000	-	-	237,200	△87,200
送金手数料	-	-	1,300,000	1,300,000	-	-	1,231,092	68,908
書籍購入費	-	-	-	-	-	-	1,209,600	△1,209,600
雑費	-	-	2,000,000	2,000,000	-	-	4,086,955	△2,086,955
計	-	-	222,000,000	222,000,000	-	-	205,095,106	16,904,894
予備費	50,000,000	20,000,000	-	70,000,000	-	-	-	70,000,000
経費前払金	-	-	-	-	30,550,000	1,000,000	-	31,550,000
備品等購入支出	42,000,000	-	-	42,000,000	10,260,790	19,671,202	3,461,508	8,606,500
退職金支払支出	-	-	-	-	-	357,600	3,580,029	△17,298,505
建物修繕積立金	60,000,000	-	-	60,000,000	60,586,000	-	-	△586,000
退職給付積立金支出	-	-	-	-	-	-	-	-
役員退職給付積立金	-	-	10,200,000	10,200,000	-	-	10,501,741	△301,741
職員退職給付積立金	23,700,000	4,100,000	5,200,000	33,000,000	27,048,220	5,566,653	5,882,530	38,497,403
計	23,700,000	4,100,000	15,400,000	43,200,000	27,048,220	5,566,653	16,384,271	△5,799,144
奨学貸与積立金支出	300,000,000	-	-	300,000,000	510,000,000	-	-	△210,000,000
法人会計へ繰入	237,400,000	-	-	237,400,000	-	-	-	237,400,000
東日本大地震津波被災児支援積立金へ繰入	-	500,000,000	-	500,000,000	-	1,244,310,639	-	1,244,310,639
東北R H建設による支出	-	307,600,000	-	307,600,000	-	404,045,570	-	404,045,570
東北R H土地購入費	-	-	-	-	-	570,400	-	△570,400
ウガンダ心塾建設仮勘定	73,500,000	-	-	73,500,000	57,043,363	-	-	16,456,637
ウガンダ寺子屋新設工事建設仮勘定	60,000,000	-	-	60,000,000	32,977	-	-	59,967,023
差入保証金支出	-	-	-	-	5,198,228	122,000	-	△5,320,228
当期支出合計	4,622,750,000	1,133,300,000	237,400,000	5,993,450,000	4,227,218,215	1,850,074,918	228,520,914	6,305,814,047
当期収支差額	132,950,000	174,300,000	-	307,250,000	600,407,694	△249,050,210	1,530,884	352,888,368
次期繰越収支差額	1,062,950,000	1,508,300,000	-	2,571,250,000	2,692,892,054	279,445,582	5,549,812	2,977,887,448

## 収支計算書に対する注記

収支計算書は、公益法人会計における内部管理事項について(平成17年3月23日 公益法人等の指導監督等に関する関係省庁連絡会議申合せ)に基づき、改正前の公益法人会計基準に準拠して作成しております。

### 1. 資金の範囲

資金の範囲には、現金預金、未収金、前払費用、有価証券、金銭信託(流動)、未払金、預り金及び仮受金を含めております。

### 2. 次期繰越収支差額に含まれる資産及び負債の内訳

(単位:円)

科 目	前期末残高	当期末残高
現金預金	2,650,546,099	2,468,003,331
未収金	5,585,280	10,232,717
前払費用	11,525,379	35,308,955
金銭信託	-	500,000,000
合計	2,667,656,758	3,013,545,003
未払金	38,840,245	28,940,415
預り金	3,817,433	6,699,940
仮受金	-	17,200
合計	42,657,678	35,657,555
次期繰越収支差額	2,624,999,080	2,977,887,448

### 3. 予算額と決算額との差が著しい科目

科目	理由
奨学貸与金	当初見込より申請者が少なかった。
仙台レインボーハウス運営費 石巻レインボーハウス運営費 陸前高田レインボーハウス運営費	建物工事と一体取得した什器が多かったなどの理由で、高額な什器備品の単独取得が減った。